

令和8年度 第1回岡崎市図書館協議会議事録

1 日時

令和8年7月28日(火) 午前9時30分開始、午前11時3分終了

2 場所

岡崎市図書館交流プラザ1階会議室103

3 出席者

(1) 出席委員(10名)

山脇正成委員、山本伸委員、平岩ふみよ委員、鹿嶋浩委員
江良友子委員、大角岳史委員、湊百合子委員、浦部幹資委員
伊藤しのぶ委員、前田有貴子委員

(2) 欠席委員

なし

(3) 説明のため出席した事務局職員

山田社会文化部長、手嶋社会文化部専門監、佐々木中央図書館長
丸本副館長、近藤総務係長、小野資料提供サービス係長
上川畑情報サービス係長、町谷主査

4 傍聴者

なし

5 次第

(1) 社会文化部長あいさつ

山田社会文化部長あいさつ

(2) 委員紹介

各委員自己紹介による

(3) 会長及び副会長選出

会長：山脇委員、副会長：山本委員を互選

- (4) 会長あいさつ
山脇会長あいさつ

- (5) 議事
ア 令和7年度事業報告
イ 令和8年度事業計画
ウ 報告事項

- (6) その他

6 議事要旨

- (1) 令和7年度事業報告
事務局から説明

(会長)

事業報告について、何か質問などあれば発言いただきたい。

(委員)

資料1 12ページ記載のレファレンス件数が大きく差が出ていることについてお聞きする。令和7年度と令和6年度ではカウントの仕方が異なると説明があったが、夜7時以降レファレンスの対応を取りやめたことの影響があるのではないか。

また、今後の課題、資料1 16ページに、レファレンスサービスの認知度の向上を図る必要があるため看板やサインなどの更新を進めていく必要がある、とのことだが一昨年度の第2回協議会で指摘している。対応までにかかなり期間が空いたことになるが、具体的に何か支障があったのか説明いただきたい。

(事務局)

レファレンス件数の減少については、対応時間を短縮したことによるものではなく、インターネット検索が一般化しており、単純な相談件数が減少していると思われる。

また、19時以降カウンターでの対応は行っていないが、Webからの相談は常時受付けており、特に問題なく対応できていると考えている。

レファレンスカウンターの看板やサインの更新については、以前指摘いただいた際に「資料案内」などの言葉を入れるなど簡易的な対応を行ったが、もう少し目を引くものにするべく改善するという意図である。そのほかレファレンスに関連するサービスの案内についても併せて行っていく。

(委員)

他館への文献複写依頼が非常に増えていることについて、利用人数が増えているわけではないようなので、特定の利用者からの依頼があって増えている。

国会図書館への複写依頼件数も倍以上増えている。国会図書館への複写依頼は基本的に個人登録して直接複写依頼するもので、図書館を経由して依頼するというのはあまり一般的ではなく、事務処理が煩雑になるだろう。利用者に個人登録してもらうなどの案内ができるとよいと感じた。

また、dマガジンの利用状況についてはどの程度であるか。利用登録に手間取ったためスタッフに聞いたが、十分な説明をしてもらえたとは言い難かった。

(事務局)

文献複写については利用者への案内が十分ではないこともあると思うが、利用されるかたは一部であり、特定のかたである。論文や専門書などの複写を依頼することが大半で、レファレンスからの流れで文献複写依頼を行うケースが多い。

レファレンスの利用率向上と合わせて、委員からご指摘いただいたように文献複写の利用方法についても周知していきたい。

(事務局)

dマガジンについては、利用している回数などログを取ることができない状態である。しかし、雑誌架を見廻った感想であるが、dマガジンを利用しているのかまでは定かではないにしても、スマートフォンやタブレットを使用しているかたを見かけている。

この点については現在利用しているネットワークが図書館の管理しているものではなく、市役所管理のネットワークであるためログの確認ができないと考えている。2年後に予定している図書館システム更新の際に、ログの確認ができるようなネットワークを導入することを検討している。

なお、利用方法について、スタッフの案内が不十分だったとのことや、雑誌架にある利用案内が小さく見づらいことを踏まえ、もう少し見やすくわかりやすいものを用意していきたい。

(委員)

国立国会図書館の複写依頼について、雑誌であれば個人で登録して利用したほうがずっと簡単であるので、そちらに誘導していくことが必要と思う。dマガジンの利用案内は小さく見にくいため改めることは必要と思う。

(委員)

ブックスタートは以前から実施されているが、近年は子どもの育ちと AI・IT の影響が大きな課題となっている。幼児期は育つ環境が重要であり、デジタル機器やアプリの影響については未解明な部分も多い。特に乳幼児期は、読み聞かせや対面での関わりなど、非言語的なコミュニケーションが心の発達に大きく関わるため、ブックスタートの実施に当たっては、ボランティア養成に加え、こうした点を学ぶ機会も必要ではないか。

また、ブックスタートは子どもだけでなく家族全体を対象とする事業であり、若い世代に対して、AI やデジタル機器と子どもの育ちとの関係を丁寧に伝えていくことが重要である。

(2) 令和 8 年度事業計画

事務局から説明

(会長)

令和 8 年度事業計画について、何か質問などあれば発言いただきたい。

(委員)

地域図書室で開催されているおはなし会は 30 分間であるが、乳幼児は生活リズムや機嫌の影響を受けやすく、開始時間に合わせて行動することが難しい。もう少し長い時間で開催してもらえれば、対象となる参加者が利用しやすくなるのではないか。

ボランティアとして活動している方々の負担が課題となる中で、参加者側から要望を伝えるのは心苦しいが、図書館側でも対応を検討していただきたい。

また、ブックスタートの際に月齢に合ったおすすめ絵本のリストを受け取り、子どもへの読み聞かせに活用しているが、図書館で借りた本は子どもがかじったり破ったりすることがあり、利用へのハードルを感じる。こうした場合の図書館の対応について伺いたい。

(事務局)

自身も子育てをされており、子連れで時間どおりに行動することの難しさは理解している。開催時間の延長については、ボランティアの方々と一度相談したい。なお、ボランティアの負担軽減に向けて、読み聞かせボランティア養成講座を毎年開催し、活動に協力いただける方を増やせるよう努めている。

また、図書館で借りた本を汚損または破損した場合の取扱いについては、大半のケースでは弁償を求めない運用としているため、気兼ねなく利用していただきたい。

(委員)

大変ありがたい。利用の際は気を付けて利用させていただく。

また、おはなし会の開催時間の延長についてであるが、例えば同じ本を繰り返し読んでいただけるだけでもありがたい。

(事務局)

中央図書館の場合では1回20分の2部制で開催している。地域図書室でも同じようにできないか一度検討したい。

(会長)

幼児教育に関わる職業を志望する高校生の中には、大学入試を見据え、夏休みなどの期間に読み聞かせボランティアとして活動したいと考える生徒もいるかもしれない。

(事務局)

ありがたい。検討させていただく。

(委員)

ブックスタート対象者を貸出証の発行をした人に限ってしまうと、ブックスタートの定義から外れてしまい、その名称が使えなくなる可能性はないか。

(事務局)

NPOブックスタートに確認したところ、市民全員に対してブックスタートの門戸を開いており、条件付きではあるものの全ての赤ちゃんを対象としているので問題ないと回答を得ている。

(委員)

ブックスタートの趣旨から、対象は全ての赤ちゃんとするべきである。事情により貸出証を作成できない方もいることから、条件は設けない方が望ましい。

(委員)

同意見である。より多くの赤ちゃんがブックスタートの対象となるよう、図書館側で手厚く対応する必要があると考える。幼少期からの読書は重要であるため、検討いただきたい。

また、大学にも読み聞かせサークルがあることから、そうした団体にも働きかけることが考えられる。デジタル化の進展は今後も続くため、地域の人材を有効に活用し、読書離れの防止につなげたい。

(委員)

ブックスタートの際に貸出証を作成することは、図書館を利用するきっかけにもなるため、よい取組であると考え。自身も、子どもの誕生を機に初めて図書館を利用し、貸出証を作成してからは定期的に通うようになった経験がある。

(4) 報告事項

第3次生涯学習推進計画改訂版の公表

事務局から説明

岡崎城下家康公夏まつり第78回花火大会当日における中央図書館の休館

事務局から説明

岡崎市制110周年記念事業第24回岡崎図書館まつり

事務局から説明

寄付の報告

事務局から説明

(会長)

本日の議事は以上でよろしいか。(意見なし)

それではこれで議事及び報告事項は終了とする。